

「川のまち旭川から 子どもたちの笑顔と希望の架け橋となって 未来をともに創り出そう！」をキャッチフレーズに、第 65 回北海道小学校長会教育研究旭川大会は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会同とオンラインによるハイブリッド開催という新たな形で実施された。

大会主題「自らの未来を拓き とともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」、大会副主題「ふるさとに誇りと愛着をもち、 とともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」の究明に向けて、11 の分科会において、Zoom のブレイクアウトルームをグループ討議で活用し、たいへん熱心な研究協議が行われた。心から感謝申し上げる。

各分科会においては、これからの時代を生きる子どもたちに求められる資質・能力の育成に向けた教育課程の編成・実施・評価・改善や、危機管理対応、いじめ・不登校等の生徒指導など、今日的教育課題の解決に向けた指導体制確立のための校長の役割と、その具体的方策等について重点的に研究協議が行われた。それぞれの分科会における提言内容や討議内容、まとめなどを俯瞰し、学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導性について、次の二つの観点から整理したい。

一つ目は「地域や学校の特色を生かし、新たな時代に求められる資質・能力を育むカリキュラム・マネジメント」について。二つ目は「学校の組織力向上とこれからの担う人材育成に向けたリーダーシップ」についてである。

では、各分科会の研究協議の内容について、この二つの観点から報告させていただく。

まず、一つ目の「地域や学校の特色を生かし、新たな時代に求められる資質・能力を育むカリキュラム・マネジメント」について。

第 1 分科会「経営ビジョン」では、「豊かな心の育成」を実現するための経営ビジョンの在り方とそれを具現化した実践事例が報告された。9 年間の学びを意識した中で、中学校区や地域でグランドデザインや重点目標を共有、統一していくこと、先見性をもって経営ビジョンを策定し発信すること、外部機関との連携における校長の役割、子どもの姿で評価・改善し、次につなげていくことの大切さが確認された。

第 4 分科会「知性・創造性」では、コロナ禍における児童の学習保障に向けたカリキュラム・マネジメントの取組やリーダーシップの在り方が報告された。カリキュラム・マネジメントを学校課題解決に向けた実効性のあるものとしていくためには、教職員の意識改革と課題の共有化が重要であり、そのために小・中が連携して一貫した教育課程の改善やそれを行う組織の見直しなどに取り組むことが大切であることが確認された。

第5分科会「豊かな人間性」では、人権教育を切り口に、豊かな人間性を育む教育活動を意図的・計画的に推進するカリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究が報告された。人権教育に計画的に取り組むためには、校長が学校経営方針に位置付けてカリキュラム作成を推進すること、人権教育を推進していくためには、校長が方向性を示し、エビデンスを得て、教職員の実践（授業）を通して検証していくという指導性を発揮していくことの大切さが確認された。

第6分科会「健やかな体」では、「心身ともに健やかな子どもの育成」に関する「十勝版経営シート」を用いた経営ビジョンの構築と校長のリーダーシップの報告がされた。「十勝版経営シート」のように、学校間や地域と連携し教育課程に生かしていく取組は、校長の思いを生かしたカリキュラム・マネジメントに向けて有効な手立てであること、地域性を生かし、価値付けや方向性を定め、協働意識を高めていくような連携を行っていくことが大切であることが確認された。

第9分科会「学校安全」では、小中一貫教育における9年間を見通した防災教育の推進や、地域ぐるみで子どもの安全を守る取組について報告された。子どもに主体的な判断、行動する力を身に付けさせるためには、校長のリーダーシップの下、教職員の判断力、行動力を高める必要があること、家庭や地域と連携した安全教育に取り組んでいる学校が少ないため、今後、校長の発信力を高めながら連携して取り組むことの大切さが確認された。

第11分科会「社会形成能力」では、昨年度からの継続研究としての課題に焦点を当て、その解決に資する地域の特色を生かしたキャリア教育の実践が紹介された。子どもたちに他者と協働しながら課題解決を図る資質・能力を身に付けさせるためには、体制づくりやシステム構築も必要であるが、子どもの姿から成果を見極めること、自己決定力を育成すること、多様性を認め合える土壌をつくることなどが大切であることが確認された。

第12分科会「自立と共生」では、共生社会の創り手を育む特別支援教育の視点を生かした学校経営の在り方や重要性について、昨年度課題であった「小中連携」に関する具体的な実践例も交えて提言された。多様な他者と協働するには、9年間で育てる資質・能力を小中で共有して取り組むこと、児童・生徒の自己肯定感を高めることが不可欠であり、積極的に関わり発信していく力を育てていくことが重要であることが確認された。

次に、二つ目の「学校の組織力向上とこれからの担う人材育成に向けたリーダーシップ」について。

第2分科会「組織・運営」では、学校経営ビジョンの具現化のためのミドルリーダーを核

とした校内組織の構築、根室地区の教育風土を生かし組織の活性化に向けた具体的な取組が報告された。活力ある学校組織を構築し学校経営ビジョンを実現するためには、グランドデザインを教職員、保護者、地域等に浸透・共有することは必須であること、心理的安定性を伴った職場環境づくりが求められていることが確認された。

第3分科会「評価・改善」では、学校評価と人事評価をリンクさせ、子どもたちのための評価・改善を目指してアプローチしてきた具体的な実践事例が紹介された。不断の改善を図るために、校長は教職員とのつながりをしっかりともち、自己有用感が高まる評価をしていくことで学校運営に対する参画意識を向上させていくこと、目指す子どもの姿と評価項目・評価基準、方策と分掌計画・学級経営案など、全てのことを教育目標の達成につなげていくことの重要さなどが確認された。

第7分科会「研究・研修」では、ICTの活用による学びの質を高めるための研究・研修体制の在り方や組織的な活用の推進に向けた校長のリーダーシップについて提言があった。校長にはICTの活用が本来の目的である「個別最適な学び」「協働的な学び」に効果的に作用し、学校の教育力向上の実現につながる「チーム学校」の舵取りが委ねられていること、「学校として」「6年間で」子どもを育むぶれない教育課程をつくるために必要な研究・研修の仕組みや組織を構築することの重要性が確認された。

第13分科会「社会との連携・協働」では、コミュニティ・スクールや学校段階等間の連携の推進等に関与する教職員や関係機関への校長の適切な働きかけについて報告された。これからは、学校と地域が目指す子ども像・地域像を共有し、対等な立場で活動する協働関係が重要であり、その関係をつくる鍵となるのが学校運営協議会や地学協働本部という組織の充実にあること、0歳から18歳までの学びの道筋を整理し、それに基づいた教育実践と検証を重ねていくことで、持続可能な校種間連携が継続されていくことの大切さが確認された。

以上、11の分科会の概要について、二つの観点から述べさせていただいた。全ての分科会を通して、校長の役割と指導性について俯瞰してみると、次の2点が大切であることが見えてきた。

1点目は、地域や学校の課題へのアプローチやこれからの時代を生きる子どもたちに求められる資質・能力の育成に向けて、校長が積極的に明確なビジョンを示し、教職員や保護者、地域・関係機関とも共有し協働して取り組むことである。さらに、その結果を子どもの姿で評価・改善し、関係者と一体となって学校経営を推進していくことで、社会に開かれた教育課程の編成につながるということがうかがえる。

2点目は、学校の組織力向上に向けて、教職員との意図的な関係づくりを図り、自己有用

感が高まるような適切な評価等でモチベーションを高めることで学校運営に対する参画意識を向上させること、教職員や保護者、地域、関係機関との連携・協働を機能させるコーディネーターとしての役割が重要であることなどである。さらに、教職員を育てるための組織力を強化し協働性を高めていくことで、これからは担う人材育成を図ることも重要であり、校長の組織マネジメントが求められるということである。

子ども一人一人の能力を伸ばし、来るべき社会の担い手を育てるという思いを教職員にもたせることは、校長が示す先見性をもった学校経営ビジョンとリーダーシップに負うところが大きいと思う。コロナ禍も3年目となり、感染症対策と教育活動を両立させながら進めているが、是非、それぞれの学校がチーム力を生かして目標を達成するよう、研鑽を重ねていきたいものである。

本大会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、全体会、分科会ともに会同とオンラインによるハイブリッド開催という形で実施された。これまでとは大きく異なる新たな開催方法ではあったが、参加していただいた皆様一人一人の協力のおかげで充実した大会とすることができた。これもひとえに、旭川市小学校長会の皆様による万全の準備と尽力のおかげであるので心から感謝申し上げます。

本大会の研究の成果が、参加していただいた校長先生を通して各地区に還元され、更には各学校の学校経営の一助となることにより、「ふるさとに誇りと愛着をもちともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」につながっていくことを確信している。

そして、来年開催される第66回北海道小学校長会教育研究渡島・北斗大会に引き継がれ、更なる大きな成果が得られることを願い、研究のまとめとさせていただきます。